

【伊方町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

伊方町では、「令和6年度伊方町教育基本方針」にあるように、「夢を育む魅力ある学校づくり、活力があり働きがいのある学校づくり」を念頭に、様々な情報機器やネットワークを活用した多様な教育を行い、変化の激しい社会やふるさとでたくましく生きるための教育を推進している。

この方針に基づき、より充実した学校でのICT環境を整えるため、きめ細かな環境整備、環境改善、新しいデジタル技術への対応を継続すると共に、今後、児童生徒がデジタル社会に参画していく上で身に付けるべき、デジタル・シチズンシップについての教育も推進する。

2. GIGA第1期の総括

本町では、早期からICT環境の整備を進めてきた。

平成27年度の小学校用1人1台端末の整備から始まり、同年には各小学校の普通教室に電子黒板を整備した。また、令和元年度には中学校用1人1台端末の整備を行い、ICT教育の発展を加速させた。

その後、授業支援ソフトや校務支援システムの導入、ICT支援員の配置等を行うことで、ICT環境の充実性を高め、令和5年度にはプログラミング機材を購入し、小学校高学年を対象としたプログラミング授業を教育委員会主催で実施しており、様々な情報機器を活用した教育を行った。

このように本町ではICT教育の推進に努めてきたが、コロナ禍では家庭学習（Wi-Fi環境が整っていない家庭）への対策が課題となった。その際は近くの公共施設にWi-Fi環境を整備する等の対策を行い解決することができた。

その他にもICTに関する習熟度やその活用意欲については学校や教職員間でまだ差があるため、第2期においては、これらの課題への対応が求められる。

3. 1人1台端末の利活用方策

前提として、端末の整備・更新により、1人1台端末環境を維持し、情報教育の推進を図る。また、これまでの課題を解決するために、ICT研修の充実化や現状に適したクラウドツールの導入等に留意し、最適なICTの活用を目指す。

1. 1人1台端末の積極的活用

現在、ICT支援員を8つの学校に対し2名を配置し、定期的にICT支援員による研修が行われている。また、学校にある電子黒板にはミラーリング機能を搭載しており、今後もより良い環境を構築していくことで1人1台端末の積極的な活用

に努めていく。

2. 個別最適・協働的な学びの充実

学校での学びの充実を図るため、授業支援ソフトを活用することで個別最適な学習を行える環境をより充実したものにし、Google Workspace for Education を有効に活用することで協働的な学びも行える環境づくりに努めていく。

3. 学びの保障

不登校や体調不良等で欠席している児童生徒への充実したオンライン授業体制確保を行い、端末を活用した健康観察・教育相談ソフトの活用等を広めることにより全員で学べる環境づくりに努めていく。